

北の大地に、若い大志を。

FUKAGAWA



課題

農業が、若い仲間を手に入れた。

北海道深川市。米や蕎麦など全国トップクラスの生産量を誇り、農作物を加工したさまざまな商品づくりに取り組んでいます。今回、JAの農産物加工施設の建てかえをきっかけに、地元にあるクラーク記念国際高等学校のキャンパス内にJAの新しい農作物加工研修施設を建設。生徒と一緒に施設の活用や商品開発を目指す、全国でも類を見ないプロジェクトです。



クラーク記念国際高等学校



挑戦

この町の名産品づくりは、青春だ。

みらい基金がサポートするこの画期的な施設でJAと高校が取り組むのは、地元の農作物を使った新しい名産品づくり。北の大地が誇る、大手食品メーカーにも負けない豊かな原材料の数々。それらを活用しながら、生徒の若い発想やアイデアと、食を知り尽くすベテランの知識をぶつけあい、かつてない新商品の開発を目指します。



未来への期待

地元の名産品を、高校から全国へ。

さらに、この地には全国のキャンパスから約2500人も生徒が体験学習に訪れます。その生徒たちに深川の食の美味しさを知ってもらいつつ、加工研修施設で開発を目指す新商品を全国へ広げるきっかけにしたい。それも、プロジェクトの大きな目標です。地元の高校を、地元の食の発信基地へ。地域がひとつになった、農業の新しいみらいが始まっています。



AMBITION FOR THE FUTURE

